

市町村における母子保健事業の効率的実施に関する研究
新潟県の乳幼児健診態勢における市町村と県の関係

研究協力者 東條 恵*

要約：この間全国に先駆けて市町村主体で乳幼児健診を行ってきた新潟県での、市町村と県保健所の関係を若干検討した。県保健所は二次スクリーニング、療育相談、保健福祉サービス調整推進会議、学習会を通して、市町村へ技術援助を行い、市町村乳幼児健診レベルの格差を是正する機能を果たしていた。かつ市町村間のネットワークづくりを行っており、今後もその事業内容を時代の要請に合わせつつ広げていこうとしていることがわかった。これらの機能は今後も県保健所では担えないものであろう。

見出し語：新潟県、市町村、県保健所、技術援助

研究目的：新潟県では全国に先駆け乳幼児健診の一次スクリーニングを実質的に市町村主体で行い、二次スクリーニングと療育相談事業を保健所を会場にして県保健所主導で行っている。この態勢の中で、全県的に良質、均等な一次スクリーニングが行われ、かつ二次スクリーニングの利用がスムーズになされることが望ましいが、市町村への県保健所保健婦を中心とした技術援助が行われてきた。このような状況のもと、市町村と県の関係の現状と今後を検討することにした。

研究方法：県保健所の療育相談担当保健婦へ記述式アンケート調査を行い、まとめた。アンケート内容は以下の3点である。①乳幼児健診態勢における県保健所の市町村への技術支援についてどのように考えているのか、②保健所の役割は？③母子保健を保健所で行なう必要性についてどう考えているのか。

結果：それぞれについての意見をまとめたものが以下である。

①について；市町村によっては健診場面でのマンパワー不足があり、県保健所よりの援助が必要な所もある。健診のスクリーニング基準はあるが、市町村ごとに要指導ケースとしてあげる

*新潟県立はまぐみ小児療育センター小児科

人数にばらつきがある。これらを是正することを含めて、県保健所で行う二次スクリーニング、療育相談そしてこの業務終了直後に行うカンファレンスに、できるだけ市町村保健婦に参加してもらっている。ケースについての情報交換、ならびに処遇についての方向を打ち出し、このことを通して市町村保健婦に学んでもらい、健診とその事後処理を含めレベルアップをはかる機会を作っている。この意味で県保健所での二次スクリーニング、療育相談事業は重要である。実際にJ保健所は18市町村を抱えていて全保健所への直接的援助は困難であるが、毎回の二次スクリーニングと療育相談、情報交換会、症例検討会、保健福祉サービス調整推進会議を年1回程度開くなどの技術援助を通して、全体のレベル向上を計っている。以上の意見であった。

②について；技術支援をしつつ、市町村主体の乳幼児健診よりの二次スクリーニングへの上げ方などの指導を通して市町村の健診を見直していく、かつ二次スクリーニングの在り方を検討していくことも保健所の役割である。また二次スクリーニングで問題とされた子供の処遇を市町村関係者とともに追及していくことを通して、関係諸機関との連携、ネットワークづくりをする必要があろうし、この中心として県保健所の役割がある。また市町村で欠けている施設や機能を分析し、関係者へ問題提起していくことも保健所の役割である。たとえば市町村単独では開催が困難である小規模通園事業などを広域で共催できないかなど提言していくなどである。また、外国人母親のグループ育成とその後地域保育機関などへつなげていく作業をしていこう

と考えている。また児童虐待についての関係諸機関とのネットワーク化に取り組もうと考えている。以上の意見であった。

③について；「市町村ごとでは対象児童の人数が少なく、グループ化できなく、対象児、保護者が孤立しやすいので、これを避けるためには保健所中心のかかわりが良い。」「医療機関との連携や情報交換は保健所を窓口として実施の方が効率が良く、ネットワーク化しやすい。」など意見があった。

考 察：母子保健で、県保健所は市町村を全体として統括、指導する要であり、保健所を中心としての技術援助を通して良質なサービスの均等な提供が保証されることになっていた。またネットワークづくりの要にもなっていた。これらの立場は今後も存続していくべきである。大きい市は別格としても、個々の市町村での少子化の中では、県保健所が統括の場になっていく必要性、必然性がある。そして保健所保健婦は二次スクリーニング、療育相談の場である保健所の役割をこのように理解し、かつ発展させようとしていることが伺えた。このような立場を考えると、保健所での母子保健事業は今後も継続する必要性のある、必然性のある事業であろう。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:この間全国に先駆けて市町村主体で乳幼児健診を行ってきた新潟県での、市町村と県保健所の関係を若干検討した。県保健所は二次スクリーニング、療育相談、保健福祉サービス調整推進会議、学習会を通して、市町村へ技術援助を行い、市町村乳幼児健診レベルの格差を是正する機能を果たしていた。かつ市町村間のネットワークづくりを行っており、今後もその事業内容を時代の要請に合わせてついでに広げていこうとしていることがわかった。これらの機能は今後も県保健所でしか担えないものであろう。